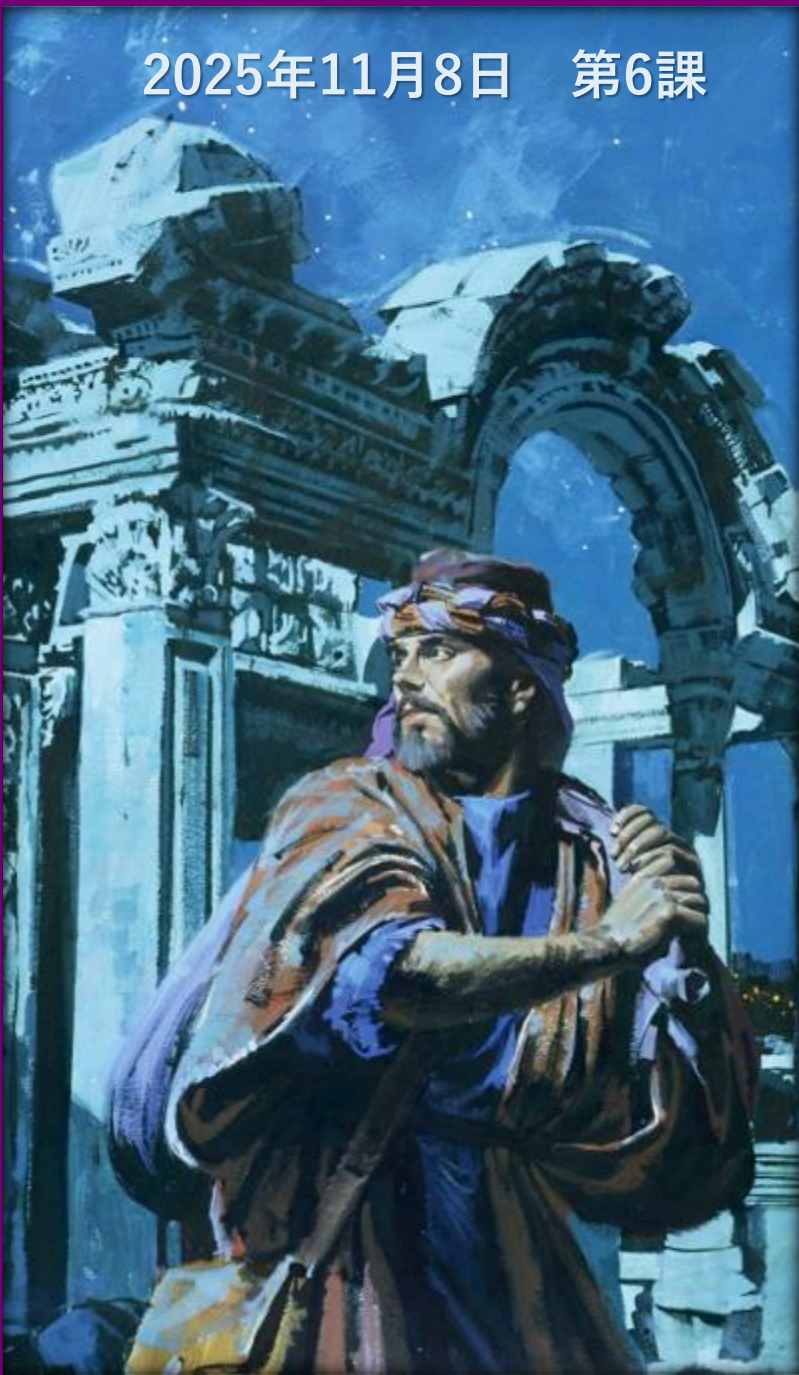


2025年11月8日 第6課

内なる敵





心を探り、その
はらわたを
究めるのは／
主なるわたしである。
それぞれの道、
業の結ぶ実に従って
報いる。

エレミヤ書 17:10, 新共同訳



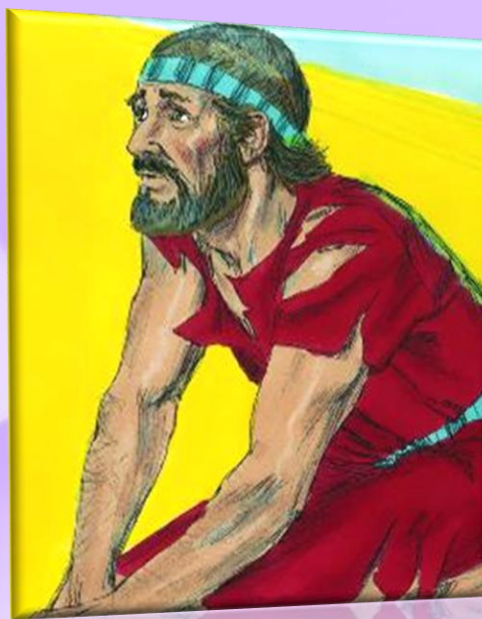
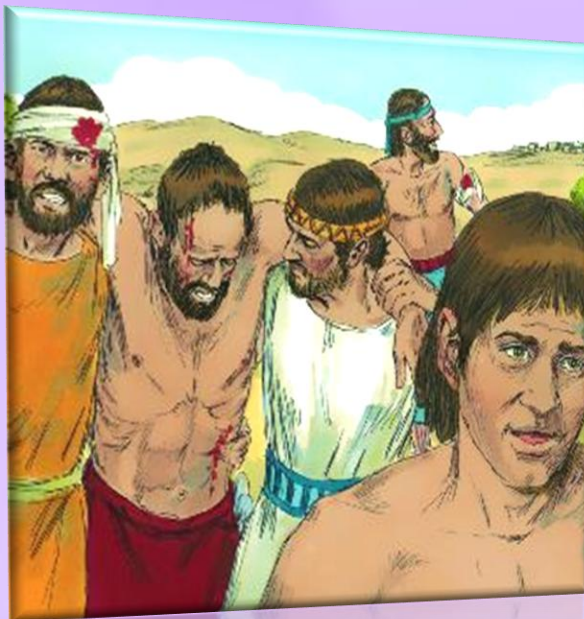
「主であるわたし
は心を探り、
思いを試みる。
おのおのに、
その道にしたがい、
その行いの実に
よって報いをする
ためである」。

エレミヤ書 17:10, 口語訳

非論理的な軍事戦術の結果、エリコの城壁は陥落した。
イスラエル軍は町に入り、町を徹底的に破壊した。
勝利は誰のものか？イスラエルはこれにほとんど関与
していなかったため、神の勝利である。

綿密に練られた軍事戦略の結果、アイは勝利を収めた。
一体誰が敗北したというのか？それはイスラエルの人々だ。
彼らは神を頼りにしていなかったのだ。

ついに彼らが神に問いかけた時、その答えは響き渡るほど
明瞭だった。「イスラエルは罪を犯し、もはや敵に打ち勝
つことはできない。どうすれば神の恵みを取り戻せるだろ
うか？」



- 契約違反 (ヨシュア記 7:1-5, 10-13)
- アカンの罪 (ヨシュア記7:14-19)
- 運命を決める選択 (ヨシュア記7:20-26)
- 希望の門 (ヨシュア記8:1-29)
- 神の力の証人 (ヨシュア記7:6-9)

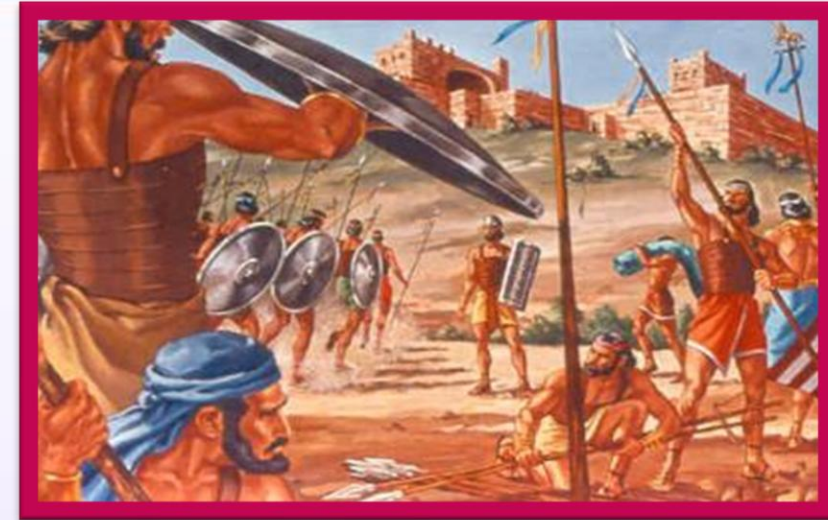
契約違反

イスラエルは罪を犯し、わたしが命じた契約を破り、滅ぼし尽くしてささげるべきものの一部を盗み取り、ごまかして自分のものにした。(ヨシュア記 7:11)

エリコに派遣された斥候たちから好意的な報告を受けた後、ヨシュアは神に相談し、町を占領するための戦略を神から授かりました。

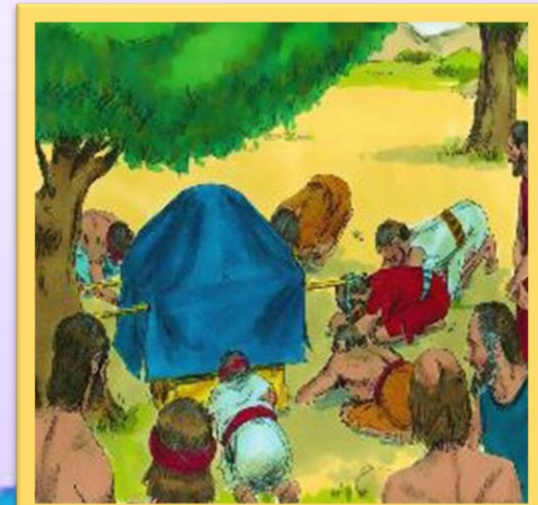
もしヨシュアがアイに派遣した斥候からの報告を受けても、神に尋ねていたら、36人の死は避けられたことでしょう。(ヨシュ 7:1-5)

しかし、敗北の本当の理由は何だったのでしょうか。あるいは、神がヨシュアにアイを攻撃しないように命じた理由は何だったのでしょうか(ヨシュ 7:12)。



神は「イスラエルは罪を犯した」と指摘になりました。聖書のどこにも、このようなニュアンスで「彼らは犯した...彼らは...彼らは奪った...彼らは嘘をついた...彼らはそれを自分たちの所有物にした」と記されている箇所はありません。

複数形であることに注目してください。罪は一人の男によって犯されましたが、その罪は民全体に及ぶのです。彼らは契約を破ったので、それを回復するためには根絶されなければなりませんでした。



共同体内の個人の悪い行いによって、
共同体全体がどんな形で苦しむ
可能性があるのでしょうか。

また、実際にどのように
苦しんできたのでしょうか。

どんな例が思い浮かびますか。

共同体は、いかに影響を受けましたか。

アカンの罪

明日の朝、あなたたちは部族ごとに進み出なさい。主の指摘を受けた部族は、氏族ごとに進み出なさい。主の指摘を受けた氏族は、家族ごとに進み出なさい。主の指摘を受けた家族の男子は、一人ずつ進み出なさい。(ヨシュア記 7:14)

集団の罪（民全体の罪）を取り除くためには、罪人を取り除かなければならなかった（ヨシュ7:15）。排除？悔い改めれば赦されるのでは？もちろん赦される！しかし、アカンは心から悔い改めるそぶりを見せなかった（悔い改める機会は何度もあった）。



調査手続きが発表され、調査自体は翌日から始められることになった。(ヨシュ 7:14-15)

アカンは黙っていた

ユダ族が指摘を受けた(ヨシュ 7:16)

アカンは黙っていた

ゼラの氏族が指摘を受けた(ヨシュ 7:17a)

アカンは黙っていた

ザブディ家が指摘を受けた(ヨシュ 7:17b)

アカンは黙っていた

カルミの子アカンが指摘を受けた(ヨシュ 7:18)

アカンは黙っていた

神の優しさと愛を反映して、ヨシュアはアカンに罪を告白するように求めました（ヨシュ 7:19）。

アカンは告白しましたが、赦しを求めませんでした（ヨシュ 7:20）。彼は、神が求める悔い改めの呼びかけに、頑固な心で反応したのです。



神がすべてをご存じであるという認識は、
あなたにどんな影響を与えますか。



運命を決める選択

分捕り物の中に一枚の美しいシニアルの上着、銀二百シェケル、重さ五十シェケルの金の延べ板があるのを見て、欲しくなって取りました。今それらは、わたしの天幕の地下に銀を下に敷いて埋めてあります。」(ヨシュア記 7:21)

ヨシュアはアカンに、神に栄光を歸し、罪を告白するよう求めました(ヨシュ7:19)。それは彼にとって最後の機会でした。もし彼が告白した時に赦しを願っていたら…しかし彼はそうしなかったため、赦しは得られませんでした(民15:30-31)。エバのように、アカンは「見て」「欲しがって」「取って」、その罪は多くの人々に影響を与えました(創3:6)。アナニアとサピラののように、アカンは神に捧げられたとされる物の一部を取り、その代償を払うことになったのです。(使5:1-2)。

ラハブ

彼女はスパイを屋根の上に隠した

彼女はイスラエルに対して親切に行動した

彼女は信仰ゆえに勝利を望んだ

彼女はイスラエルと契約を結んだ

彼女は自分と家族の命を救った

アカン

彼は盗品を地面に隠した

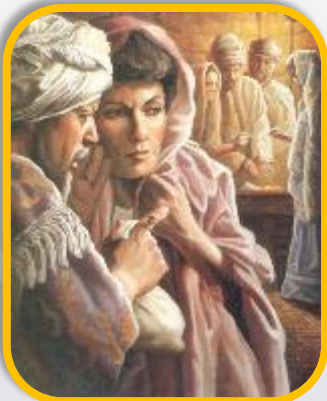
それはイスラエルに問題をもたらした

彼は自らの行為によって敗北を招いた

彼はイスラエルとの契約を破った

彼は家族とともに亡くなった

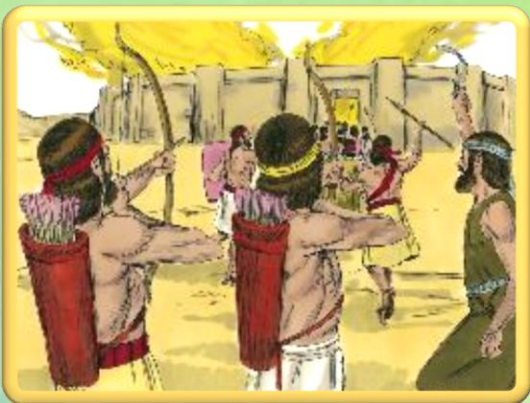
エリコでアカンが下した決断は、ラハブの決断と正反対でした。



貪欲の罪に陥らないためにはどうすれば
よいでしょうか(ルカ**12:15**と比較)。

希望の門

主はヨシュアに言われた。「恐れてはならない。おののいてはならない。全軍隊を引き連れてアイに攻め上りなさい。アイの王も民も町も周辺の土地もあなたの手に渡す。」(ヨシュア記 8:1)



エリコの場合と同様に、神はヨシュアにアイに対する勝利を得るための戦略を与えました(ヨシュ 8:1-2)。

夜の間に、別同隊を町の背後に待ち伏せさせ、夜明けとともに軍勢はアイに接近した後、前回のように、彼らの前から逃げたのです。



モーセがアマレク人に勝利するまで杖を掲げたように、ヨシュアは神の命令に従って「武器」(おそらくエジプト人が使用した鎌剣)を掲げ、完全な勝利を得るまでそれを掲げ続けました(ヨシュ 8:18-22, 26)。

神は再び民に勝利を与えられました。アカンとその家族が処刑されたアコルの谷は、勝利への扉、すなわち「希望の扉」(ホセ2:15)を開きました。

私たちが信仰によって神に赦しを求めるとき、神は私たちの罪をアコルに埋め、希望への扉を開いてくださいます。



ヨシュア記**8:1～29**を読んでください。
この物語は、神がいかにして私たちの
大失敗をチャンスに変えることが
おできになるかについて、
どんなことを教えてくださいか。

神の力の証人

ヨシュアは神に言った。「ああ、わが神、主よ。なぜ、あなたはこの民にヨルダン川を渡らせたのですか。わたしたちをアモリ人の手に渡して滅ぼすおつもりだったのですか。わたしたちはヨルダン川の向こうにとどまることで満足していたのです。(ヨシュア記7:7)



ヨシュアと長老たちはアイでの敗北に落胆し、明らかに嘆き悲しんだ様子を見せた(ヨシュ7:6)。

ヨシュアは、イスラエルが40年間の放浪の間に繰り返し示したのと同じような不平を神に言います。「なぜ私たちを渡らせたのですか？私たちがヨルダンの向こう側で満足していたのならよかったのに…！」(ヨシュ7:7)

しかし、ヨシュアの心は砂漠のイスラエル人たちの心とは異なっていました。彼の不平は失望からではなく、異邦人の間で神の名が辱められるのではないかという恐れから生じたものでした(ヨシュ7:8-9)。

イエスは、神のご性質が不信者によって、神の民の行いによって解釈されることをはっきりと見抜いておられました。今日も私たちは、世界において神の証人であり続けます。なんと偉大な責任でしょう！



申命記 4 章 5 ～ 9 節を読んでください。
イスラエルが世の人々に示した証と、
今日のセブンスデー・アドベンチスト
としての私たちの証との間には、
どのような類似点が見出せるでしょうか。

教会が最も恐れるべき影響は、公然たる反対者や不信心者、冒涇者によるものではなく、キリストを名乗る者たちの矛盾した態度にある。彼らこそがイスラエルの神の祝福を妨げ、教会に弱さを招き、容易に拭い去ることのできない汚名を刻む者たちである...キリスト教は安息日に見せびらかし、聖所で披露するためのものではない。それは週の毎日、あらゆる場所のためのものだ。その要求は、工房でも、家庭でも、兄弟たちや世の人々との商取引においても、認められ従わなければならない...」